

第2四半期決算の概要 (平成28年4月1日～9月30日)

1 | 当社グループの業績の状況

当第2四半期における連結売上高は、原料費調整制度に基づきガスの販売単価が低めに推移したことなどにより、前年同期比17.0%減の5,323億円となりました。(グラフ①)

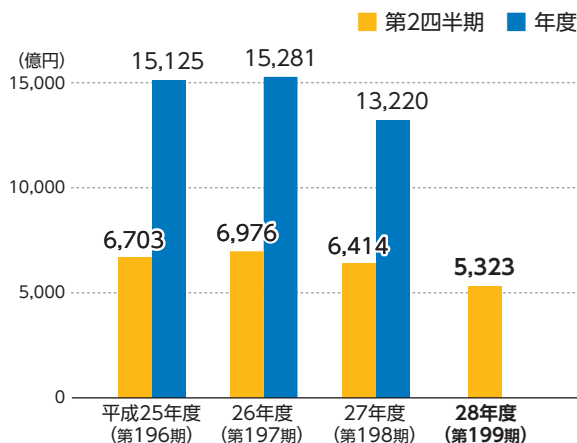
連結経常利益は、ガス事業で原料価格の変動がガス販売価格に反映されるまでの時間差による影響^(※)が前年同期に比べて縮小したことなどにより、前年同期比46.0%減の333億円となりました。(グラフ②)

また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比49.4%減の333億円となりました。(グラフ③)

(※) 原料費の変動が原料費調整制度に基づく販売単価に反映されるまでには、一定の時間差があるため、一時的な増減益要因となります。当第2四半期・前年同期においては、一時的な増益要因となっております。

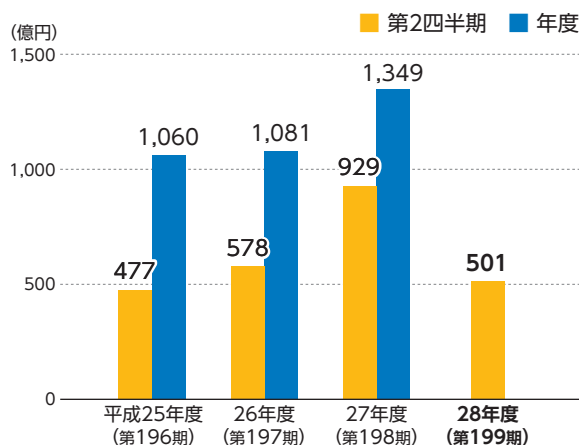
グラフ①

連結売上高の推移



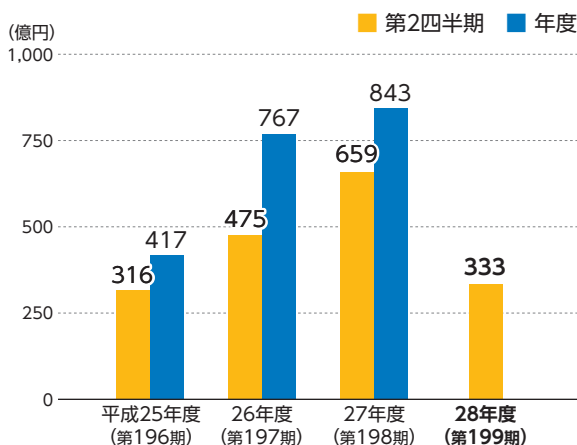
グラフ②

連結経常利益の推移



グラフ③

親会社株主に帰属する
四半期 (当期) 純利益の推移



第2四半期決算の概要 (平成28年4月1日～9月30日)

2 | 事業部門別 (セグメント別) の状況

1 ガス

■ 売上高

原料費調整制度によってガス販売単価が低めに推移したことなどにより、前年同期比21.6%減の3,597億円となりました。

■ お客さま数 (取付メーター数)

前期末に比べ1万8千戸増加し、729万8千戸となりました。

■ ガス販売量

家庭用ガス販売量は、気温・水温が前年に比べて高く推移し、給湯需要が減少したことなどにより、前年同期比3.6%減の7億5千2百万m³となりました。

業務用ガス販売量は、工業用における需要開発等により、前年同期比9.1%増の30億1百万m³となりました。

他ガス事業者向けのガス販売量は、前年同期比3.7%増の2億3千2百万m³となりました。

これらの結果、ガス販売量は、前年同期比6.1%増の39億8千5百万m³となりました。(グラフ④)

■ ガス機器販売等

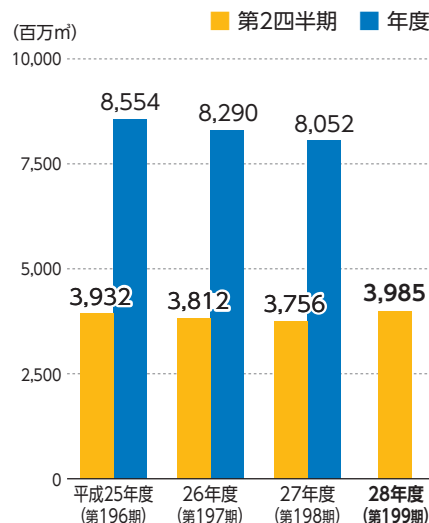
家庭用のガス機器につきましては、給湯、暖房、調理等の機器・設備に加え、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」や、これと太陽光発電システムを組み合わせた「ダブル発電」等の商品の開発および販売拡大に努めております。加えて、機器の修理やメンテナンス等のサービス向上にも注力しております。

本年4月、さらに高い発電効率とコンパクト化を実現した「エネファームtype S」(固体酸化物形燃料電池)の新商品を発売いたしました。また、この商品を導入されたお客さまを対象^(※)として、お客さま宅で使われなかった電力(余剰電力)の買い取りを開始いたしました。

(※) 太陽光発電に係る国の余剰電力買取制度を利用されている場合を除きます。

グラフ④

ガス販売量の推移



エネファームtype S

また、本年5月、お客さまとのつながりを強化するため、「住ミカタ・サービス」を開始いたしました（8頁トピックスおよび裏表紙参照）。

業務用のガス機器につきましては、コージェネレーションシステム、冷暖房システム、厨房機器、ボイラ、工業炉、バーナ等の商品の開発および販売拡大に努めるとともに、エンジニアリング力を活用し、お客さまのニーズに応じた高付加価値のソリューションの提供に努めております。

■ 安定供給・保安の確保

天然ガスの調達先や契約価格指標の多様化、製造・供給設備の保全と計画的な改修、安全機能を備えたガス機器の普及促進等に継続的に取り組んでおります。

緊急時の備えとして、引き続き受付出動体制を整え、津波対策のための沿岸防災ブロックの運用等を行っております。また、耐震性の高い製造・供給設備の導入も進めております。



バーナの技術開発テスト



保安訓練

2 LPG・電力・その他エネルギー

売上高は、前年同期比8.8%減の947億円となりました。

本年4月、産業ガス・LNG・LPG等の販売事業を展開してきた株式会社リキッドガスおよびその傘下会社を、会社分割等により事業分野ごとに再編いたしました。

電力事業につきましては、各地の火力発電設備、風力発電設備、太陽光発電設備が引き続き順調に稼働しております。

本年4月、電力小売全面自由化を契機に電力小売事業に参入し（裏表紙参照）、低圧電気需給契約に基づく供給を開始いたしました。本年9月末時点の供給件数は19万1千件となっております。

なお、本年10月、当社は、福島ガス発電株式会社の株式20%を取得し、福島県・相馬港における天然ガス火力発電事業に参画いたしました（8頁トピックス参照）。



電力小売のPR

第2四半期決算の概要（平成28年4月1日～9月30日）

3 海外エネルギー

売上高は、前年同期比40.1%減の64億円となりました。

平成26年2月に参画決定した米国テキサス州におけるフリーポートLNGプロジェクトの液化事業につきましては、設備の建設が順調に進んでおります。当社は、年間232万トンの液化加工委託契約を締結しており、シェールガスをはじめとする米国産天然ガスをLNGとして調達することを目指しております（平成30年出荷開始予定）。

平成27年4月に参画決定した米国メリーランド州におけるセントチャールズ天然ガス火力発電事業につきましては、発電所（発電容量72.5万kW、事業会社の当社グループ持分25%）の建設が順調に進んでおります（平成29年運転開始予定）。



セントチャールズ
天然ガス火力発電所（建設中）

4 ライフ&ビジネス ソリューション

売上高は、ほぼ前年同期並みの1,004億円となりました。

都市開発事業を展開する大阪ガス都市開発株式会社は、「アーバネックス清澄白河Ⅱ」（東京都）などの賃貸マンション2物件を取得し、京阪神地区に加え首都圏でも資産の拡充に努めております。また、本年7月に竣工した分譲マンション「ジ・アーバネックス京都河原町プレイズ」は竣工前に完売しております。

情報ソリューション事業を展開する株式会社オーグス総研は、企業情報システムのコンサルティング・設計・開発・運用や、データセンター・クラウドサービス等、総合的なITサービスの提供に努めております。

材料ソリューション事業を展開する大阪ガスケミカル株式会社は、石炭化学技術等を基盤として、ファイン材料や炭素材製品等、付加価値の高い材料の開発および販売拡大に努めております。



アーバネックス清澄白河Ⅱ
（東京都）

事業部門別 売上高・セグメント損益

	ガス	LPG・電力・ その他エネルギー	海外エネルギー	ライフ&ビジネス ソリューション
売上高 (億円)	3,597	947	64	1,004
前年同期比 (%)	△21.6	△8.8	△40.1	+0.1
構成比 (%)	64.1	16.9	1.1	17.9
セグメント損益(億円)	319	118	△18	78
前年同期比 (%)	△50.8	△30.5	－ ^(※)	+5.1
構成比 (%)	64.2	23.7	△3.8	15.8

(※) 前年同期は、36億円のセグメント利益を計上しております。

(注) 事業部門別の売上高・セグメント損益には、事業部門間の内部取引に係る金額を含んでおります。なお、セグメント損益には、持分法による投資損益を含んでおります。

主要な事業内容

事業部門	主要な事業内容
ガス	● ガス販売 ● ガス機器販売 ● ガス配管工事 ● 熱供給
LPG・電力・ その他エネルギー	● LPG販売 ● 電気供給 ● LNG販売 ● 産業ガス販売
海外エネルギー	● 海外におけるエネルギー供給 ● LNG輸送タンカーの賃貸 ● 石油および天然ガスに関する開発・投資
ライフ&ビジネス ソリューション	● 不動産の開発および賃貸 ● 情報処理サービス ● ファイン材料および炭素材製品の販売